

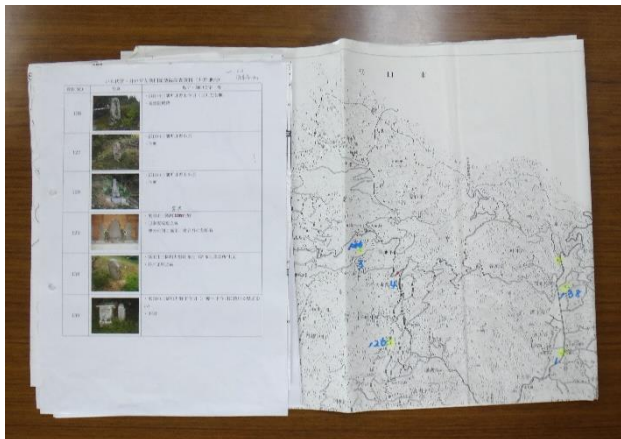
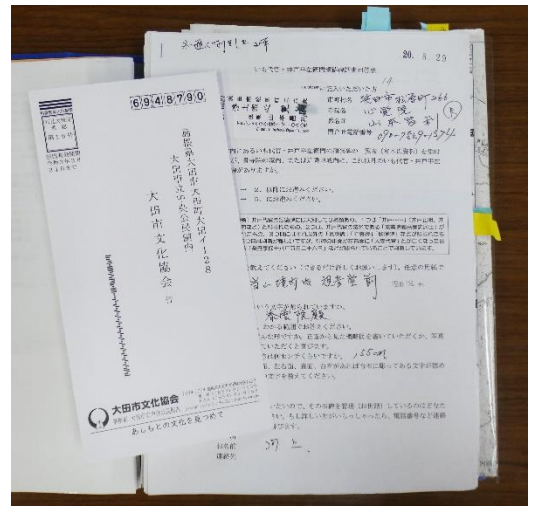
令和2年度石見銀山基金事業報告

大田市文化協会

【事業名】芋代官・井戸平左衛門頌徳碑調査事業

【事業実施内容】

享保の飢饉（1731年）の際に薩摩から甘藷を導入して領民を飢餓から救った第19代大森代官、井戸平左衛門の遺徳に感謝した頌徳碑（以下「井戸公碑」）は山口県を除く中国4県に500基以上建立されているが、これまで碑の分布について広く調査が行われていなかったため、郵便により中国5県の市町村教育委員会、島根県内の神社、寺院に碑の存否を照会した。送付した照会状は総数1,394件で、このうち661件（47.4%）の回答を得た。回答は概ね[写真右]のように碑の存否をA4の回答用紙に記入して返送されたが、中には[写真下2枚]のように碑の写真や地図を添付していただいたものもあった。



また、この事業は報道機関から注目され、産経新聞（大阪本社版夕刊、中四国版の2回）、朝日新聞、読売新聞、山陰中央新報で報道された。そのうちの一部を紹介する。

23 島根 石見 13版S 2020年(令和2年)10月28日(水)

「芋代官」感謝の碑 解明へ

文化協会 中国地方に493基確認

「芋代官」として親しまれる井戸平左衛門の遺徳に感謝した頌徳碑は、山口県を除く中国4県に500基以上建立されているが、これまで碑の分布について広く調査が行われていなかったため、郵便により中国5県の市町村教育委員会、島根県内の神社、寺院に碑の存否を照会した。送付した照会状は総数1,394件で、このうち661件（47.4%）の回答を得た。回答は概ね[写真右]のように碑の存否をA4の回答用紙に記入して返送されたが、中には[写真下2枚]のように碑の写真や地図を添付していただいたものもあった。

7 産経 4版 令和2年(2020年)8月27日 木曜日

石見 初の本格調査

石碑500基も代官とは何

「芋代官」感謝の碑 解明へ

芋代官、サツマイモ栽培で飢饉を救った

「芋代官」として親しまれる井戸平左衛門の遺徳に感謝した頌徳碑は、山口県を除く中国4県に500基以上建立されているが、これまで碑の分布について広く調査が行われていなかったため、郵便により中国5県の市町村教育委員会、島根県内の神社、寺院に碑の存否を照会した。送付した照会状は総数1,394件で、このうち661件（47.4%）の回答を得た。回答は概ね[写真右]のように碑の存否をA4の回答用紙に記入して返送されたが、中には[写真下2枚]のように碑の写真や地図を添付していただいたものもあった。

朝日新聞

8月27日(木) 夕刊

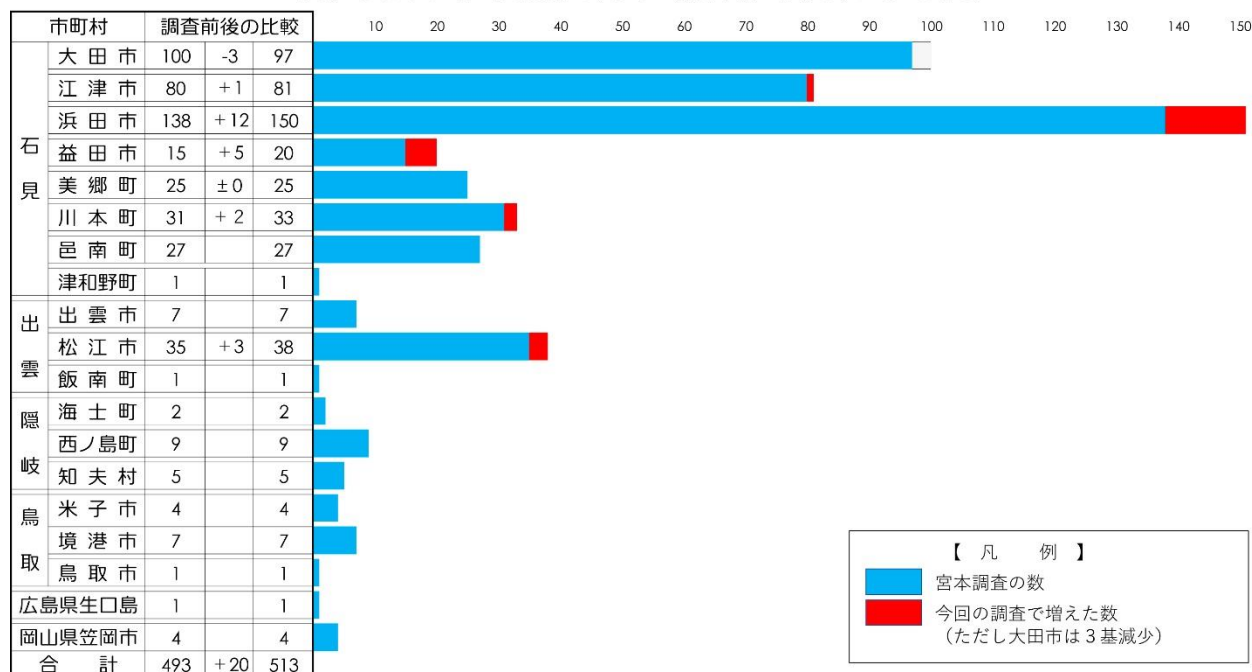
読売新聞

山陰中央新報

事業実施期間は、照会状の発送日が令和2年5月22日。これに対して回答は5月23日から11月4日まで寄せられた。調査対象ごとの回答率は、市町村教育委員会が84件（79.3%）、神社が178件（48.6%）、寺院が399件（43.3%）、全体では661件（47.4%）だった。

回答を集計した結果、これまで未発見だった頌徳碑は松江市、江津市、浜田市、益田市、川本町、美郷町から合計27基の報告があった。ただ、「以前はあったが現在は既に存在しない」という報告もあったので、これらを精査した結果、2年度の調査結果による全体の数は、調査前の493基から20基増加し、合計513基となった。ただし、この数は、3年度以降に現地調査を進めていけば、増減するものと思われる。市町村別の井戸公碑は下のグラフのとおりとなる。

井戸公碑の市町村別の分布（照会事業で報告されたものを含む）



【事業を実施しての感想、効果など】

当初、郵便による突然の照会では多くの回答は期待できないだろうと予想したが、回答は661件（47.4%）もあり、大変喜んだ。井戸公碑が全くない市町村からは「井戸代官の名前を初めて聞いた」などの感想があったように、関心は薄く従って回答率も低い傾向があったが、井戸公碑が存在する市町村からは概ね好意的な回答が多く、「存在しない」との回答にも激励の言葉が添えられたりした。

今回の調査で、未発見の碑を加えた井戸公碑の総数は513基となり、石見部だけでなくかなり広い範囲に井戸代官やサツマイモに感謝する庶民の思いが広がっていたことが再確認できた。

また、未発見の碑の報告があった市町村では、写真や地図を添付していただいた例もあった。中には回答者が住んでいる地域の井戸公碑の一覧表を作成している方もあり、次年度以降の現地調査の際に協力していただける方が何人もできたことも、この事業の大きな成果であり、令和3年度と4年の2か年事業として、井戸公碑全基の現地調査を進めていきたい。

また、井戸代官の遺徳が長文で書かれ、寺院毎に毎年営まれていた「芋法事」などで、読経の後僧侶が読み上げた「暉恩伝」という書き物が石見部の寺院に残されていることから、県内の寺院に対しては「暉恩伝」の存否も照会したところ、大田市、江津市、浜田市、邑南町の7か寺から存在が報告され、写真撮影も許可していただいたので、井戸公碑の現地調査と並行して、「暉恩伝」の確認も進めていきたい。